

自治体と連携した 国産SAFサプライチェーン構築の取組

2026年 2月24日



中部国際空港株式会社
Central Japan International Airport Co.,Ltd.

サステナビリティ推進室長 重野 尚之





空港開港日	2005年2月17日
関係会社（3社）	中部国際空港エネルギー供給、中部国際空港テクニカルコネクト、中部国際空港旅客サービス
グループ総従業員数	917名 * 2025年3月末現在

<空港施設・処理能力>

旅客ターミナルビル （年間処理能力）	第1	年間1,700万人
	第2	年間450万人
旅客ターミナルビル （面積）	第1	219,000 m ²
	第2	45,000 m ²
スポット数	81（小型機用6含む）	
運用時間	24時間	
滑走路長	3,500m×1本	



※代替滑走路を建設中（2027年度中に供用開始予定）

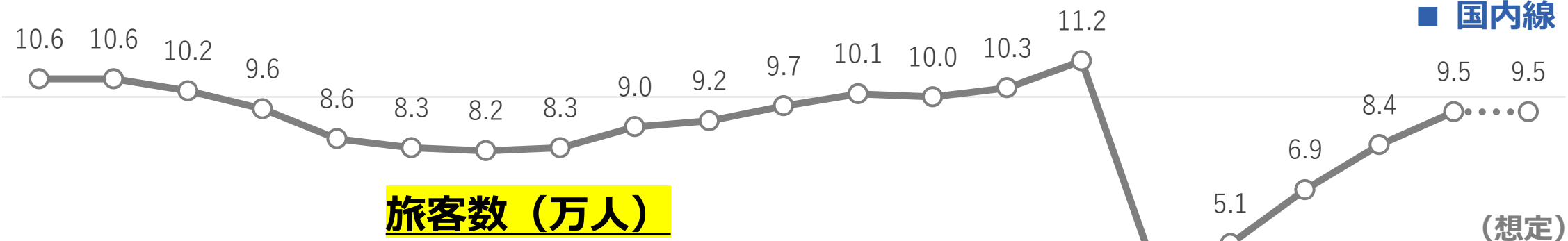




年度別旅客数・発着回数推移

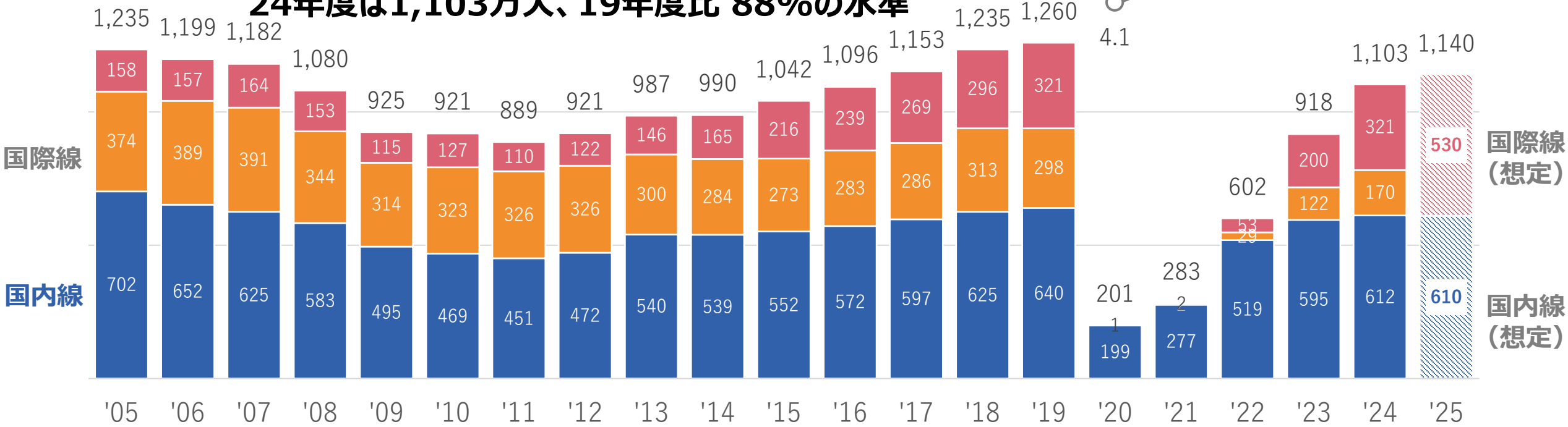
発着回数 (万回)

24年度の発着回数は9.5万回で、コロナ前19年度比85%の水準



旅客数 (万人)

24年度は1,103万人、19年度比 88%の水準





コロナ渦



現在



航空旅客数 (2019年度4~12月比)

	2020年度 4~12月	2025年度 4~12月
国際線	0.2%	78%
国内線	30%	92%

航空機発着回数 (2019年度4~12月比)

	2020年度 4~12月	2025年度 4~12月
国際線	10%	77%
国内線	55%	86%



回復局面にあるものの、
依然としてコロナ前の水準には達していない





中部国際空港における温室効果ガスの総排出量

※2019年度実績



2021年5月「セントレア・ゼロカーボン2050宣言」を表明し、2030年度までに空港地上施設からの温室効果ガス排出量を 2013年度比46%以上削減、2050年ゼロカーボンを目指しております。



- ✓ 空港全体総排出量の **約9割が航空機**
- ✓ 航空分野の脱炭素は **SAF推進が切り札**

空港アクセス

空港の施設等
4%

7%

航空機
89%





重要 航空機燃料は、航空会社が石油元売事業者から直接調達するものであり、空港会社の役割とは？

1 空港脱炭素推進

- ✓ セントレア・ゼロカーボン2050宣言
- ✓ 航空業界の脱炭素の切り札はSAF 決して他人事ではない



2 選ばれ続ける空港へ

- ✓ 国際線の旅客数・発着回数がコロナ前の水準に戻っていない危機感
- ✓ SAFが供給できるかどうかも 今後、空港を選択する際の一つの判断材料となる可能性有り



セントレアは地域社会の熱意と支援によって成長してきた地域密着型の国際空港

空港会社として提供できる価値

- ✓ **国産SAFの原料確保に寄与**
家庭から排出の廃食用油を自治体へ回収協力の働きかけ
- ✓ **SAFの情報発信、機運醸成**



祝 令和7年 常滑市 二十歳のつどい

現在稼働しているセントレアを起点としたSAFサプライチェーン



セントレアにて
航空機への国産SAF供給



SAFの原料となる
廃食用油回収働きかけ



連携
協力

空港周辺自治体



家庭等からの
廃食用油回収



廃食用油の収集



国産SAFの輸送



国産SAFの製造





効果

- ✓ 廃棄されていた廃食用油をSAFに転換する取組は、**資源循環を促進し、かつ脱炭素社会の実現**に大きく貢献できる。
- ✓ 市民が提供した廃食用油を航空機燃料として“見える形”で活用することで、「自分たちの油で飛行機を飛ばす」というストーリーが共有され、**回収量の拡大が期待される。**
- ✓ 市民が日常生活で発生する廃食用油の回収を通じて、資源循環型社会の実現に**直接参加・貢献**できる。



市民の廃食用油持ち込み



懸念

- ✓ 廃食用油の回収拠点整備
- ✓ 既存のバイオディーゼル等の用途における**売買・回収単価を下回るケース**が多く、自治体収入の減少につながる可能性





自治体への働きかけ

- ✓ サプライチェーンの全体像、廃食用油確保の重要性について、「プロジェクトの趣旨」を明確に説明
- ✓ 各自治体の企画・環境部門、関係会議などを通じて協力依頼
- ✓ SAF資源循環に関心を示す自治体に、回収の意義と将来にわたる波及効果を伝える
- ✓ サプライチェーンの円滑な運用には、SAF製造事業者等の連携が不可欠であり、両者をつなぐ役割



会議等での働きかけ



自治体と直接打ち合わせ



自治体との協定締結



情報発信、機運醸成

- ✓ 自治体主催イベントにも参画して直接市民に向けて情報発信
- ✓ 出前授業をはじめ、若い世代を含めて幅広い世代に情報発信し、廃食用油を捨てず回収拠点に持ち込む行動変容を促進
- ✓ デジタル/マスメディアへの積極的なPR



幅広い世代へ情報発信



イベントでの情報発信

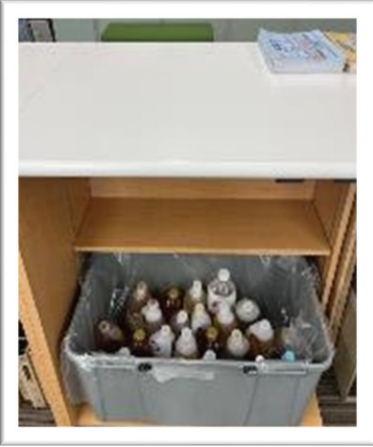


ターミナル内広告



セントレア働きかけによるSAF原料とした廃食用油の愛知県内回収状況

弥富市 25年3月～



知多市 25年3月～



大治町 24年11月～

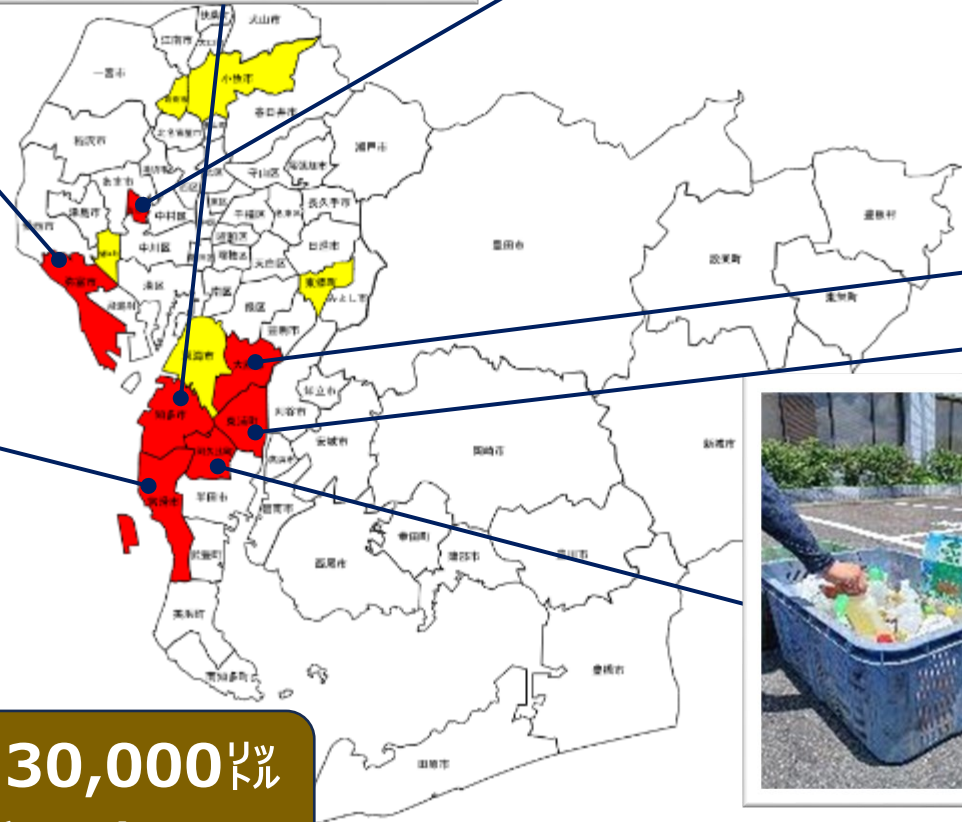


26年4月回収開始

小牧市 岩倉市 東海市
東郷町 蟹江町 ほか



常滑市給食センター
24年10月～



大府市 25年4月～



阿久比町 25年6月～



東浦町 24年4月～



※2026年2月現在

年間回収量見込み 約130,000㍑
(26年4月以降回収分含む)



周辺自治体回収の廃食用油を原料とした国産SAF供給開始

➤ 国産SAF供給開始記念セレモニー

日 時： 2025年 5月 23日 10:00～11:00

場 所： 中部国際空港 第2国際貨物上屋 DHL区画（DHL駐機115番スポット）



廃食用油協定締結やSAF供給のプレスリリースを効果的に発信し、夢のある身近な脱炭素施策として今、注目の取り組み！

国産SAFの
貨物定期便への供給は
日本初



セントレアで初めて国産SAFを供給

貨物機として国内初、地元の廃食用油でDHLが空を飛ぶ



- | | | | | | | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------------|
| 知多市
立川副市長 | 大府市
山口副市長 | 東浦町
日高町長 | 常滑市
伊藤市長 | 愛知県
大村知事 | DHL
トニー社長 | 中部空港
犬塚社長 | 日揮HD
秋鹿TCO | コスモ
高山社長 | レボ
越川CEO | SAFFAIRE
西村COO |
|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|---------------|-------------|-------------|-------------------|



➤ 目的

愛知県の航空分野におけるCO2排出量削減を図るため、企業や市町村等が連携し、「**地産地消SAFサプライチェーン構築プロジェクト※**」の推進をはじめ、この地域でのSAFサプライチェーンの構築を目指す。

※ 株式会社レポインターナショナル、株式会社NTTデータが提案し「あいちカーボンニュートラル戦略会議」にて選定。愛知県内でSAFの原料となる廃食用油等の回収、SAFの製造、空港での利用までを目指す。それらの過程でのCO2排出量をトレーサビリティシステムにより正確に把握しCO2削減効果を評価する認証制度を検討する。

➤ 事業

目的を達成するために必要な事項の協議、検討、事業の実施

- ・ 廃食用油回収スキーム、トレーサビリティ構築等にかかる課題検討
- ・ プロジェクト推進に係る気運醸成

➤ 構成メンバー

会長：愛知県知事

会員：企業・団体（市町村、一部事務組合を含む。）

アドバイザー：有識者（大学教授等）

オブザーバー：国・県・航空関連企業等

事務局：県次世代モビリティ産業課

※ ワーキンググループを設置（各種協議・検討）

2025年8月8日設立





～ たとえ微力であっても、継続することは決して無駄ではないと信じて ～



- SAFの原料となる廃食用油回収量拡大
- 自治体・ステークホルダーとの連携強化
- 市民参加型による脱炭素の取り組みの可視化 = 機運醸成
- セントレアを起点としたサプライチェーンの安定稼働



『 その廃食用油、捨てるか それともセントレアの未来に使うか 』



ご清聴ありがとうございました



将来のセントレアゼロカーボンイメージ